社会福祉法人
日本キングス・ガーデン

「常総ふれあいの杜」広報誌No.35　2017年春号（季刊）

ふれあい通信

常総広域障害者支援施設
『常総ふれあいの杜』
常総市大生郷町1880番地
Tel0297−27−5016
Fax0297−27−5045
www.kings-garden.or.jp

発行責任者藤原裕也
編集員広報委員会

レーナ・マリアコンサートを終えて

理事長代理　宇都宮和子

五月十九日、少し不安を覚えてのスタートでしたが、開演と同時に多くの方々が来場、ノバホールは九百名近い人で一杯になりました。

大きな拍手に迎えられ、レーナ・マリアさん登場。その歌声が心に響き、胸が熱くなりました。

「ジャパンインマイハート」では手話を交えて会場は大いに盛り上がりました。アンケートの中にも「重度の障害を持ちながらも、笑顔で歌うその歌声には涙が止まりませんでした。勇気をもらいました」等、多くの声が書かれてありました。

日本でのコンサートも無事終わり、スウェーデンに帰国。この企画を支えてくれたスタッフにも感謝、ハレルヤです。

スナップフォト

KG合同運動会

晴天の中で合同運動会。みんな暑い中、頑張りました。

開会式。準備体操をして、「今年も頑張るぞ！」すごく気合が入っていました。まずは、おやつ取り競争！色々と目移りして

「ぼく、あれにする！」決めて走って行き、パッチン！取れたかな？頑張ったから格別おいしいかな？応援合戦も、迫力を見せてもらいました。ご利用者も前に出てフレーフレー紅組、フレーフレー白組」と力強い応援で、ますます盛り上がりました。リレーでは、「一番になるから、見てて」と、あるご利用者。結果は惜しくも二番だけど、最後まで諦めずゴールした姿を見せてくれました。選手みんながキラキラ輝いていました。最後はソーラン節！♪どっこいしょ～どっこいしょ～ソーランソーラン♪会場全体に掛け声が響き渡りました。

楽しく思い出いっぱいの運動会も、これにて終了！今年も楽しい運動会になりました。みんな頑張ったね！おすごかったね！みんな疲れ様でした。来年の運動会が、もう既に待ち遠しいです。（高木求）

※ボランティアに感謝します。喫茶／須田晶子様、高橋和子様、中山小夜子様、安田春江様　砂長幸子様

ゆうあいピック

この所、暑い日が続いています。そんな中、第十九回茨城県ゆうあいスポーツ大会が行われ、五月二十一日に二名の方がフライングディスクに参加し、二十八日に、レクリエーション競技に参加しました。当日も気温が上がり、暑い日になりましたが、それに負けないくらい、各組熱い戦いが繰り広げられました。今でも印象に残っているのが、最終種目のリレーです。足の速さは個人差があり、思わず声が出てしまいました。身振り手振りで応援している人や、大会の一体感を感じました。この様に声援を送っている人を見て、改めて心が高ぶる大会は、自分の中では久しぶりで、とても有意義な時間を過ごせたと思います。又この種目以外にも、見ごたえのある種目もあり、とても楽しかったです。また機会があれば参加したいです。（安部優一）

菓子工房班の日々

毎朝、元気な挨拶で班活動が始まります。クッキー、ケーキ作りの器具、材料をこなしていくご利用者の顔は輝いています。四月に特養から異動して、作業を準備し、手順を迷わずに手際良く作業おぼつかない私に色々教えてくれる、頼もしく優しいご利用者ばかりです。四月にはグループホームの竣工式が行われ、ご利用者と一緒にクッキーを納品に行きました。その際、立派な感謝状を頂き、ご利用者の凛とした姿、表情がとても印象的でした。これからもこなしていきたいです。（鈴木麻里）

お花見

四月上旬、少し風が強かったのですがブルーシートをしき、みんなで座ってお花見をしました。お菓子や、好きなジュースを選んで、楽しい時間を過ごす事が少なく、桜の木の下で、満開の桜の下で楽しんでいる姿を見る事が出来ました。こんな事が出来て良かったです。来年度は、快晴の時にできたらいいですね。（石塚理沙）

新☆リハレク班

新年度になり、新体制で活動が始まりました。リハレク班ではリハビリが目的の方、自分に合ったレクレーションで過ごす方と、個別のスタイルで活動できるように対応しています。今後も個々に合った活動ができるようにできるよう考えていきたいと思います。（鈴木千恵）

けやき外食

昨年に引き続き、すたみな太郎に行きました。前日から「すたみなにしており、当日はバスに乗った時から上機嫌でした。到着すると、普段では食べられない物を美味しそうに食べ、施設では体験出来ない食べ放題に、みんなが笑顔でいつも以上に「こうね」「行くし」「みにする」と言うと外食に行った事が返事をしてきました。また行きましょうね。（青柳雄祐）

ハッピーでいる事

レーナ・マリアのコンサートは歌を拝見しました。深い勿論お話も興味素晴らしいたキャッチャーハンデ大きいつもハンディキャップありがとうございました。

スウェーデンに生まれ育った両親と三つ目は価値ある存在自分と思える国に二つ目は自分保障されている機会をもらえる事。

話すことが苦手な性格。ハンディキャップの自分の目標は様々な理由を持っていること。

（土田誠一）

✍編集後記／上野動物園で、パンダの赤ちゃんが産まれました。小さな体で力強く鳴く姿は、見ている私達を笑顔にしてくれますね♪